

狂犬病 予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

【どんな病気？】

狂犬病は、狂犬病ウイルスに感染している動物(犬のほか、キツネ、アライグマ、コウモリ、スカンクなど)に咬まれたり、傷口や粘膜を舐められたりすることで感染し、発病した場合には、100%死亡する危険な病気です。感染から発病までの潜伏期間は咬まれた部位等によってさまざま、多くは1~2か月です。

発病するとカゼ症状に加え、強い不安感、神経過敏症状(光や音・振動に対する異常な反応や見当識障害、幻覚など)その後、全身麻痺から昏睡状態となり、呼吸不全で死亡します。発病から死亡まで2~6日といわれています。

日本では、海外で犬に咬まれ帰国後発病した輸入症例を除いて1957年以降、人にも動物にも発生していません。しかし、狂犬病は一部地域を除き世界中で発生しており、毎年50,000人以上が亡くなっています。特に発生の多い地域はアジアや南米、アフリカです。アメリカや韓国、中国、ロシアでも発生があります。発生が報告されている地域へ渡航する場合には注意が必要です。

【どんなワクチン？】

ニワトリ胚細胞で培養して精製した不活化ワクチン(病原体となるウイルスや細菌の感染する能力を失わせたものを原材料として作られたワクチン)です。ブタ皮膚由来のゼラチンを含むため、**ゼラチン含有製剤又はゼラチン含有食品**に対して、**ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難、口唇浮腫、咽頭浮腫など)等の過敏症の既往歴のある人は接種に注意が必要です。**

感染の機会があった(曝露)前後では接種方法が異なります。海外の狂犬病危険動物に咬まれたときは、水と石けんで傷口を十分洗い、アルコール等で消毒した上、免疫プログリンとワクチンの併用により発病を予防します。また、必要に応じて破傷風のワクチンも併用します。詳細は現地の専門医の意見を確認しましょう。

【副反応は？】

まれに、接種部位の発赤、疼痛や硬結(しこり)、食欲不振、下痢又はおう吐等が認められる場合がありますが、一過性のものです。

【接種対象年齢・回数・間隔等】

予防接種名	接種対象年齢又は対象者と回数		接種間隔	当センター接種料金	
狂犬病 (KMB)*	全年齢	曝露前	3回	4週間隔で2回 6~12か月後に1回	当センターでは取り扱いなし
		曝露後	6回	1回目を0日として、以降3、7、14、30、90日後	

***KMB社製ワクチンは令和3年12月31日をもって接種を終了しました**

狂犬病 ラビピュール (GSK)	全年齢	曝露前	3回	0、7、21日または0、7、28日	1回 ¥17,000
		曝露後	6回	4~6回接種が必要 (咬傷の状況により異なる)	当センターでは取り扱いなし

接種後の注意

- ・接種当日の激しい運動は避けてください。
- ・接種部位に、発赤、いたみや硬結(しこり)をみることがありますが、特に心配はいりません。熱感あれば冷やして様子を見るようにしてください。
- ・特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センター(Tel.06-6768-1486)へご連絡ください。

☆次頁の各ワクチン共通の説明書も、必ずご覧ください。

各ワクチン共通の説明書

1. 一般的な注意

- (1) 受ける予防接種について、この予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。わからないことは予防接種を受ける前に質問してください。
- (2) 接種当日は、母子健康手帳を持ってきてください。（成人で母子健康手帳のない場合は結構です。）
- ◎受けられる方がお子さんの場合については、保護者の方は以下の点についても特にご注意ください。
 - (1) 当日は体温を計り、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わった様子がないことを確認してください。接種に連れていく予定をしても体調が悪いときはやめてください。
 - (2) お子さんの日頃の状態をよく知っている保護者の方がお付き添いください。
 - (3) 予診票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。ありのままに記入してください。

2. 病気にかかった後の接種間隔

麻しん、風しん、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて次の間隔をあけてください。

麻しん（治ってから4週間程度）	風しん、水痘、おたふくかぜ（治ってから2~4週間程度）
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑（治ってから1~2週間程度）	普通感冒や上気道炎（治ってから1週間程度）

3. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱のある人（明らかな発熱とは、接種場所で測定した体温が37.5℃以上を指します。）
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その日は見合わせるのが原則です。
- (3) 予防接種の接種液の成分でアナフィラキシー（接種後30分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある人。
- (4) BCG接種の場合は、外傷などによるケロイドができたことがある人。
- (5) その他、医師が接種不相当と判断した人。

4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、かかりつけの医師がある場合には必ず前もって診ていただき、診断書又は意見書をもらってからご来院ください。

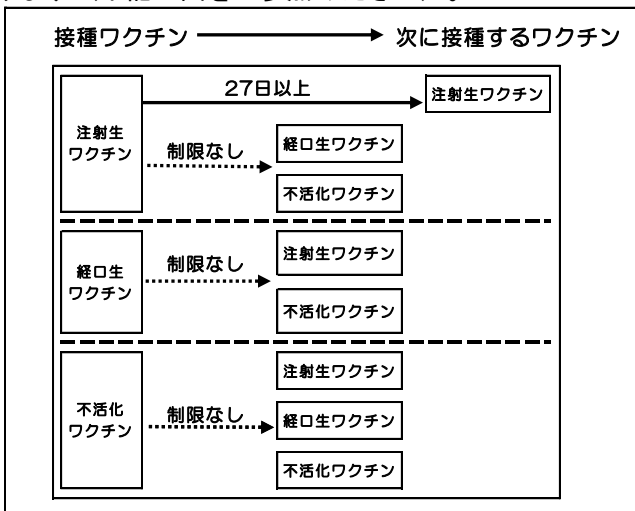
- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている人。
- (2) 予防接種後2日以内に発熱及び、全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた人。
- (3) 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれのある人。
- (4) 今までにけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人。
- (5) 過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- (6) 家族、接触のあった友だちなどに、麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人。感染して潜伏期間（症状が出ない期間）中の場合がありますので、かかりつけの医師と事前によく相談してください。
- (7) BCG接種については、過去に結核患者と長期に接触があった人、結核に感染している疑いのある人。

5. 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- (1) 予防接種を受けたあと30分以内に、急な副反応がおこることがあります。接種後は安静に待機し、体調に変化がないかどうか様子を見てください。
- (2) 接種部位は清潔にしてください。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめてください。接種当日はいつも通りの生活ができますが、はげしい運動は避けてください。
- (3) 高熱、おう吐、けいれん（ひきつけ）など特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センターへご連絡ください。

6. 予防接種の接種間隔

異なる種類のワクチンを接種する際、注射生ワクチンと注射生ワクチンは27日以上間隔をあける必要があります（下記の図をご参照ください）。



予防接種の種類
【注射生ワクチン】 麻しん風しん混合(MR) 水痘(みずぼうそう) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 結核(BCG) 黄熱
【経口生ワクチン】 ロタウイルス(1価・5価)
【不活化ワクチン】 4種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) 3種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風) 2種混合(ジフテリア・破傷風) インフルエンザ ポリオ 破傷風 日本脳炎 ヒブ(インフルエンザ菌b型) A型肝炎 B型肝炎 狂犬病 髄膜炎菌 肺炎球菌(13価・23価) HPV(ヒトパピローマウイルス)

◎同じ種類のワクチンを複数回接種する場合、それぞれのワクチンに定められた接種間隔があります。医師とよく相談したうえで接種を受けてください。